

## 1. 研究主題・副題

# 主体的につながる矢田野っ子の育成

～自ら問いをもち、考え、学び合う授業づくりを通して～

## 2. 主題・副題設定の理由

これまで、本校では、国語科の「文学的な文章」を中心に、児童の主体的な姿を職員全員で具体的にイメージしながら、研究を進めてきた。職員全員が思い描く「主体的」な姿とは、まずは児童が自分の考えをもつこと、児童自ら他者と協働すること、既習したことを生かしながら物語を楽しんで読むことなどの意見が挙がった。このような姿を目指していくために、令和6年度は、まずは教師が教材研究を楽しんで行うこと、「付けたい力」を明確にもって指導できるよう研究を進めてきた。

### ☆成果

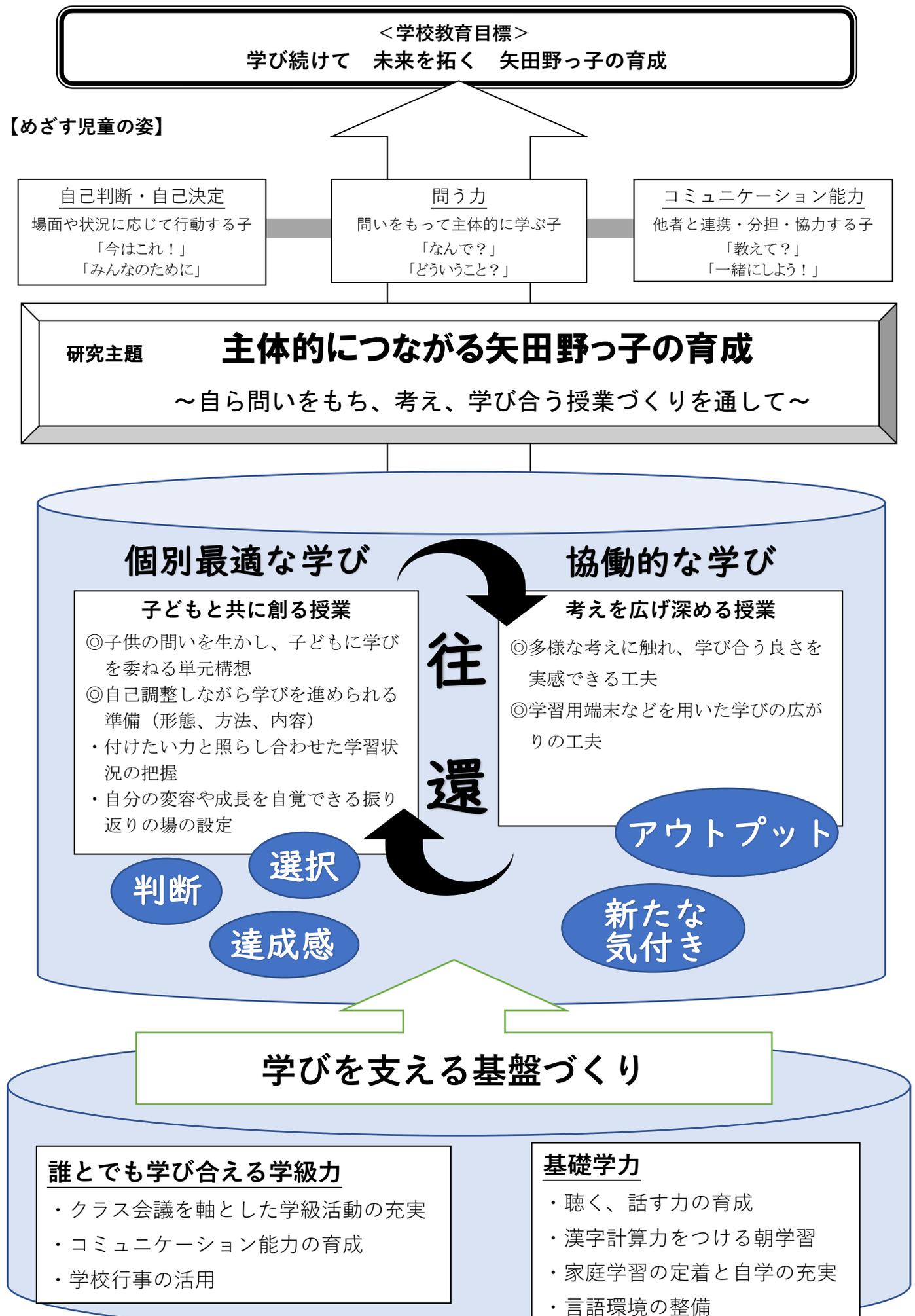
- 【児童】・どのような教科、場面でも、自分の考えをもつことができる児童が増えた。
  - ・「つながる矢田野っ子」に取り組んだことで、目的をもって主体的に考える児童が増えた。
  - ・児童同士でクラスの課題を解決しようと取り組み、聴く・話す力が高まった。
- 【教師】・単元構想シートの活用により、既習の資質・能力の確認や指導事項の焦点化、教材の強みや着目させたい言葉を捉え、見方、考え方を働かせた授業になるよう工夫することができた。
  - ・各クラスの「つながる矢田野っ子」の目標の掲示場所を統一したことで、担任だけでなく、全職員で価値づけや意識づけができた。

### ☆課題

- 【児童】・既習を生かして「自分で読む」ことに苦手意識をもっている児童が多く、粘り強さに欠ける。
  - ・自分の考えを深めたり広げたりすることや、友達と交流し合う良さの実感が薄い。
  - ・自分で問いや課題意識をもって学習を進めようとする児童が少ない。
- 【教師】・「教師がどう教えるか」という視点が強く、子どもに学びを委ねる時間が少ない。
  - ・必要感や目的意識をもった個別の時間、グループ学習の設定。
  - ・意味のある形式として「聴く」ことが身に付いているかどうかを検証していく必要あり。

このことから、令和7年度は子どもに学びを委ねる授業改善として、国語科を中心に、個別最適な学びと協働的な学びを意識した授業づくりを進め、児童自ら「問い」をもって自分で判断、選択しながら、粘り強く学習する児童の姿を目指していく。また、多様な他者となつながら、協働し合いながら、他者の考えに触れることで、自分の考えがより豊かになること、共に学ぶことがよりよい学びにつながることを実感できるような研究を進めていきたいと考える。

### 3. 研究全体構想図



#### 4. 研究の重点と研究内容

重点	目指す児童の姿	教師の手立て・工夫	研究
個別最適な学び	◎ 単元構想	<ul style="list-style-type: none"> <li>①単元構想シートの活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・系統性を大切に</li> <li>・つきたい力を明確に、焦点化</li> <li>・子どもの問いを生かす単元構想</li> <li>・子どもに委ねる場面の計画</li> <li>・教師が出る場面の吟味</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業や指導案検討会の実施</li> <li>・単元構想シートの改善と提案</li> <li>・検証 (アンケート)</li> </ul>
	◎ 自己調整	<ul style="list-style-type: none"> <li>①目的意識や必要感のある学びを</li> <li>②学び方を選択できる準備</li> </ul> 形態 一斉・個別・ペア・グループ 方法 端末で 本で 辞書で…等 内容 自分の問いや課題に応じて	<ul style="list-style-type: none"> <li>・委ねる場面の具体的な方法の提案</li> <li>・ICT の効果的な活用</li> <li>・並行読書本の選定 (図書教育担当)</li> </ul>
	見取りと適切な指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の変容や成長を自覚できる振り返りができる。</li> <li>・次の学びにつながる振り返りができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①付けたい力と照らし合わせた学習状況の把握（見取り）               <ul style="list-style-type: none"> <li>・どの子も自分の考えをもてるような時間を確保し助言を準備する。</li> <li>・見取りと適切な指導 (個へ、グループへ、全体への助言、見守り)</li> </ul> </li> <li>②努力と成長の過程を自覚させる振り返りの充実               <ul style="list-style-type: none"> <li>・学びの進行している過程で</li> <li>・学びが終わった時点で</li> </ul> </li> </ul>
協働的な学び	学び合い	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学び合う良さを実感できる工夫               <ul style="list-style-type: none"> <li>・広げる、確かなものにする、再構築する、深めるなど、意味や目的を明確にする。</li> </ul> </li> <li>②学習用端末の効果的な活用               <ul style="list-style-type: none"> <li>・児童が自由に、自分のタイミングで他者参照できるよう工夫</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話力の向上の取り組み</li> <li>・パドレットや Canva などの提案と研修 (GIGA 推進リーダー)</li> </ul>
学習を支える基盤づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心して誰とでも学び合える学級の雰囲気をつくることできる。</li> <li>・主体的に考えながら聴くことができる。</li> <li>・漢字や計算、言葉の使い方を身につけることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①誰とでも学び合える学級力               <ul style="list-style-type: none"> <li>・クラス会議を軸とした共感的人間関係の形成</li> <li>・日々の発達支持的生徒指導</li> </ul> </li> <li>②基礎学力               <ul style="list-style-type: none"> <li>・つながる矢田野っ子の継続</li> <li>・子ども授業参観の開催</li> <li>・学期末の漢字計算検定の継続</li> <li>・朝学習、家庭学習の充実</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒指導との連携</li> <li>・「言葉の宝箱」の取り組み</li> <li>・聴く話す力を育む共通実践とその振り返り</li> <li>・教務との連携</li> </ul>